



ふくおかのふくし

7月号
2011.128号

第31回福岡県ふれあいとチャレンジの翼
ドルフィンタッチにチャレンジする参加者
(平成23年6月30日 沖縄県)

●特集 災害時に備えて私たちができること

- ・ 福島県現地報告
- ・ 災害に備え様々な研修事業を実施
- ・ 地域の連携強化を ～福岡県総合防災訓練～

●真夏の沖縄でふれあいとチャレンジを体験

第31回福岡県ふれあいとチャレンジの翼

●第11回福岡県ねんりんスポーツ・文化祭参加者作品募集のお知らせ

●赤い羽根バッジデザイン・キャッチフレーズ決定

特集

東日本大震災被災地復興から学ぶ 災害時に備えて私たちができること

福島県での活動報告

東日本大震災から4カ月が経過しました。被災地は今なお深刻な状況が続いていますが、少しずつ復興への道を歩んでいます。

現在、九州ブロックの各県・市社協がボランティアコーディネーターとして職員を派遣している福島県の「いわき市災害救援ボランティアセンター」には、連日100名を超える全国からのボランティアが、猛暑の中、瓦礫の撤去や側溝の清掃など、被災地復興に向けて活動しています。

千葉県から自家用車でいわき市に入り、ボランティア活動中の60代の男性は「私たちが、瓦礫だと

思っている、被災者の方にとっては『大切な思い出』なのです。ひとつずつ丁寧に扱っています。作業後の『ありがとうございました』の言葉で疲れを忘れますね。」と笑顔で語ってくれました。

福島県では、地震や津波で家屋を失った方や、原発事故の影響で自宅が避難区域に指定され、避難所生活を送られている方々の雇用促進住宅や仮設住宅への入居も始まっています。

入居後は、高齢者世帯や要援護者の見守り、孤独死防止に向けた取り組みなど、住民のコミュニティづくりが重要となります。

いわき市災害救援ボランティアセンターでは、見守り部門の活動として、避難所や仮設住宅への戸別訪



全国から寄せられた応援メッセージ
(いわき市災害救援ボランティアセンター)

問等に加え、被災者と既存住民のコミュニティづくりの一環として、交流のきっかけとなる、サロンを開催するなど、新たな取り組みが検討されています。



瓦礫の撤去前（右）と撤去後（左）



災害に備え様々な研修事業を実施

社会福祉施設役職員研修 管理系研修

介護施設・事業所向けリスクマネジメント研修

社会福祉施設が直面した

未曾有の被害

東日本大震災は、社会福祉施設にも甚大な被害を及ぼしました。特に津波被害を受けた岩手県、宮城県、福島県の3県では、特別養護老人ホームや保育所など計875の社会福祉施設が被災したことが厚生労働省のまとめで分かっています。

その中でも、九州ブロックが支援に入っている福島県では、地震や津波の影響に加え、福島第一原子力発電所の影響で社会福祉施設の入居者の避難が困難を極めました。

避難区域が拡大すると共に、多くの施設が避難先を転々とし、避難先での介護を強いられ、寒さ対策、

食糧不足、他の避難者との関わりなど、多くの問題に直面しました。

そのような中、福島県社協施設支援班では、震災直後から施設における水や食料、介護用品等の不足に対応するため、ホームページを通じて施設の状況を伝え、特に近隣の地域住民の方々への物資の提供を呼びかけました。また、全国各地からの支援物資を受け入れ、県内各地の社会福祉施設へ配布を行いました。

災害に備えて

福岡県社協研修事業

災害時をはじめ、社会福祉法人、介護施設・事業所において、災害地であっても利用者の安全やニーズを提供して事業を継続していく

必要が求められています。

福岡県社協では、社会福祉施設の経営に求められるリスクマネジメントや災害時における事業の継続及び地域連携等を目的として、「平成23年度 社会福祉施設役職員研修 管理系研修」「平成23年度介護施設・事業所向けリスクマネジメント研修」を開催し、福祉サービスにおけるリスクマネジメントの重点の理解を図るとともに、福祉施設・事業所において地震や水害に備えて準備すべき事項を整理し、事例解説を通じて理解を深めることを目的に開催します。

【問合せ先】

研修部 研修課

TEL 092(584)3401

平成23年度

介護施設・事業所向けリスクマネジメント研修

- ・開催期日 平成23年8月24日(水)
- ・会場 クローバープラザ 1階クローバーホール (春日市原町3丁目1-7)
- ・受講対象者 福岡県内の介護老人保健施設、介護療養型医療施設、介護付有料老人ホーム、認知症対応型共同生活介護事業所、小規模多機能型居宅介護事業所の管理者・職員等
- ・定員 250名 (※定員になり次第締め切り)
- ・受講料 5,000円

平成23年度

社会福祉施設役職員研修 管理系研修

- ・開催期日 A日程：平成23年8月22日(月)
B日程：平成23年8月23日(火)
- ・会場 クローバープラザ 1階クローバーホール (春日市原町3丁目1-7)
- ・受講対象者 社会福祉法人の理事長・理事・施設長・管理職等
- ・定員 250名 (※定員になり次第締め切り)
- ・受講料 2,000円

※研修内容・申込方法等の詳細は上記までお問い合わせください。

地域の連携強化を

福岡県総合防災訓練

現地ボランティア本部設置運営訓練実施

住民参加型訓練の拡充

福岡県総合防災訓練が6月5日、芦屋町の芦屋港を会場に行われました。総括訓練本部長 小川洋福岡県知事をはじめ、遠賀郡4町（岡垣町、遠賀町、水巻町、芦屋町）の住民や県内の消防隊、警察、医療関係者、自衛隊、ボランティアなど1300名が参加し、計35種類の訓練に取り組みました。

今回は、東日本大震災を受け、初めて津波を想定した訓練も実施されました。また、近年の活発な梅雨前線による豪雨の影響で、九州各地で発生した河川の氾濫や甚大な浸水被害を受けたことに伴い、河口流域での大規模水害への対応能力の強化に向けた訓練も行いました。

その他にも、少年消防クラブや地域住民による消火訓練や避難訓練、応急手当訓練など地域住民自らが、訓練に参加することで、地域防災力の向上を図る訓練も行われ、参加者は真剣な表情で訓練にあたっていました。

被災地での経験を活かして

福岡県社協では遠賀郡4町の社協、防災士ネットワークの方々とともに「現地ボランティア本部」設置運営訓練や避難所共同運営訓練を行いました。訓練では被災現場にボランティアを迅速に送り出すマッチングなど、ボランティア本部の設置運営や、避難所開設の図上訓練を行い、東日本大震災で得た、災害ボランティアセンター

設置や運営の経験を活かし、避難者の受入れや避難所の運営について訓練指導を行いました。

訓練の参加者からは、「災害発生時のニーズの聞き取りの重要性を感じた。」「マッチングするためには、ボランティア希望者の資格・特技と被害先のニーズを理解しておかないといけない。また、安全のためには、被災地の情報収集も必要と感じた。」など、ボランティア



県社協と市町村社協による合同訓練



被災やニーズ受付など役割ごとに訓練を行いました。

アセンターでのコーディネーターの役割を実感していました。今回の訓練実施にあたり総括訓練本部 小川洋福岡県知事は「今回の訓練で、参加者は迅速かつ的確に訓練でき、大変心強い。災害に強い地域作りに取り組んでいきたい。」と話されました。

【問合せ先】
地域福祉部 地域課
TEL 092(584)3377

東日本大震災

被災地復興応援募金の状況

福岡県共同募金会の取組み

被災地復興

応援募金について

福岡県共同募金会では、東日本大震災で被災した地域の復興応援のため、福岡県、福岡県社協と協働し、共同募金会各支会・市区町村社会福祉協議会の協力を得ながら、平成23年3月14日から、全県的に被災地復興応援募金に取り組んでいます。

福岡県では、これまでに877,606,636円（7月10日現在）の義援金が寄せられており、中央共同募金会（7月8日現在）と日本赤十字社（7月7日現在）には、全国から295,390,819,309円の義援金が寄せられています。

これらの義援金は、被災都道府県

の要請に基づき、被災都道府県が設置する義援金配分委員会に送金します。

そして、義援金配分委員会から被災市区町村に送金され、被災者に届けられます。（表1）

義援金の配分については、中央共同募金会、日本赤十字社、被災した15都道府県等で構成する義援金配分割合決定委員会（事務局・厚生労働省）で、被害ごとの配分基準を決定しています。具体的な配分基準は、それぞれの都道府県で地域の実情に合わせて決定しますが、配分額に不平等が起らないように配慮されています。

被災した自治体の職員が不足しており、義援金関係の業務が滞ったため、義援金が被災者の手元に届かない状況が続きましたが、これまでに237,790,000,

000円（7月7日現在）の義援金を、被災都道府県の配分委員会に送金しており、各市区町村を通じて、順次被災された方々のもとへ届けられます。

なお、中央共同募金会・日本赤十字社が集める義援金は、全額が被災都道府県の義援金配分委員会に送られます。共同募金会が、事務費や手数料などをいただくことは一切ありません。

今後も、皆様の暖かいご協力をお願いします。



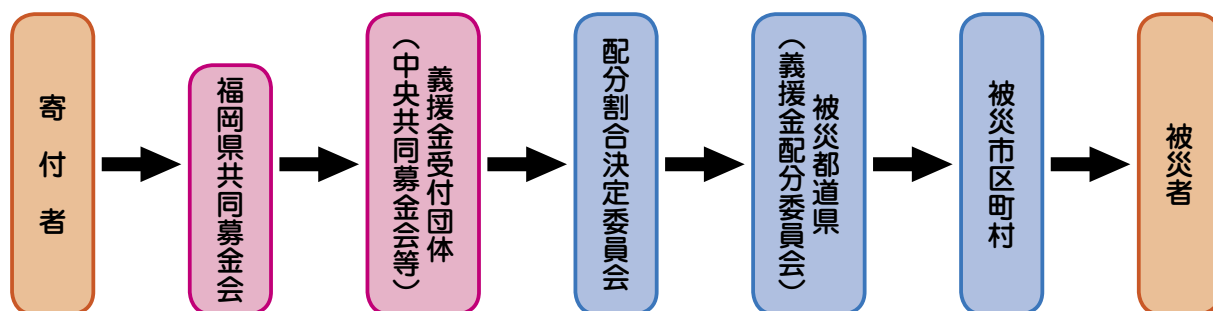
【問合せ先】

福岡県共同募金会

TEL 092(584)3388

（表1）

義援金が被災者に届けられるまで（東日本大震災の場合）



真夏の沖縄でふれあいとチャレンジを体験

第31回福岡県ふれあいとチャレンジの翼

福岡県社協では、日頃旅行の機会が得られない在宅障害児・者とその家族の方々に「空の旅」を体験していただく「福岡県ふれあいとチャレンジの翼」を実施しています。1981年の「国際障害者年」に始まった本事業は、今年度で31回目となりました。今年度も西日本新聞民生事業団、日本赤十字社福岡県支部、全日本空輸株式会社をはじめ、多くの方々にご支援・ご協力をいただき開催しました。

今年度は、6月29日（水）から7月1日（金）にかけて、県内13市町の16作業所等から、障害児者46名、その家族・作業所等関係者35名と医療スタッフ3名、県職員1名、福岡県社協役員20名の総勢105名が真夏の沖縄へ旅立ちました。

1日目

結団式

福岡空港

待ちに待った6月29日の朝、参加者が、県内各地から福岡空港に集まってきました。福岡空港での「結団式」では、本事業の支援者であり、毎年記念Tシャツを贈られている西日本新聞民生事業団 河内 信行事務局長から「暑い夏の沖縄を満喫してください。」と激励の言葉をいただき、参加者を代表して笠明日香さん（久留米市 たけの子）が「心に残る思い出をいっぱいつくってきま

す」と元気に応えていました。

続いて江上まりさん（久留米市 フロンティア）から感謝の気持ちを込めた花束を支援者へ贈呈し、一行は沖縄へ出発しました。



笠明日香さん
(久留米市 たけの子)

歓迎セレモニー

那覇空港

那覇空港で行われた歓迎セレモニーでは、沖縄県社協の方やSOLA沖縄学園のボランティアの皆さん

んに、あたたかな笑顔で迎えていただき、松山裕哉さん（八女市 八女作業所）から記念品として、沖縄県社協の比嘉成和常務理事に作業所で作っているセルプ製品の八女茶のギフトセットを贈りました。

国際通り自由散策

那覇市

那覇市のメインストリートである国際通りの自由散策にでかけました。沖縄独特の食材が並ぶ牧志公設市場や、沖縄特有のお店が通りの両側に無数に連なり、活気にあふれていました。

参加者はボランティアの案内で、泡盛蔵、雑貨屋、お土産屋などを見ながら、沖縄の雰囲気をも十分に体験しました。



交流会（夕食）

糸満市

交流会（夕食）では、SOLA沖縄学園のボランティアの皆さんとの交流会が行われました。今回参加した作業所の紹介や毎年恒例のカラオケ大会もあり、楽しい時間を過ごしました。

2日目

水中鑑賞船「オルカ」

那覇市

2日目は、那覇埠頭から大型水中鑑賞船「オルカ」に乗り、沖縄の青い海を鑑賞しました。

沖縄の海の中はとてきれいで、いろんな魚を見ることができました。



ドルフィンプログラム・海水浴

国頭郡恩納村

2日目の宿泊先の「ルネッサンス・リゾート・オキナワ」ホテルに着後、みんな楽しみにしていたドルフィンプログラム・海水浴です。

ドルフィンプログラムでは、イルカと握手をしたり、イルカの躍動感ある動きに感動したり、貴重な体験をしました。

次に、西日新聞民生事業団から贈

られたおそろいのTシャツに着替えて、キラキラ輝く太陽の下、透き通ったプライベートビーチで海水浴にチャレンジしました。

沖縄の自然にふれあい、充実感で心と体に元気が湧いてきました。



3日目

美ら海水族館

国頭郡本部町

3日目は、世界一のアクリルパネルの水族館、美ら海水族館を見学しました。水族館入口のジンベイザメのモニュメントの前で記念撮影をした後、いざ、海の世界へ。

水族館の中ではかわいい熱帯魚からジンベイザメやマンタの群れまで、大小様々な魚を鑑賞し、沖縄のダイナミックな海の世界を満喫しました。



お別れセレモニー

那覇空港

楽しく過ごした沖縄の3日間はあつという間に過ぎました。

お別れセレモニーでは、川添優子さん（朝倉市 あゆみの会共同作業所）が、参加者を代表してボランティアの皆さんにお礼の言葉を述べました。

3日間一緒に過ごしたSOLA沖縄学園のボランティアのみなさんと握手をしたり、抱き合ったり、別れを惜しみました。

最後に、参加者の方が、「とても楽しかった3日間でした。この思い出を忘れず、明日からも頑張ります」と笑顔で語ってくださいました。



川添優子さん
(朝倉市 あゆみの会共同作業所)

【問合せ先】

地域福祉部 生きがいづくり課
TEL092(584)3377

参加者・作品募集のお知らせ



はつらつと元気に

スポーツ・文化交流大会参加者募集

- ・開催される種目（20種目）
卓球（地区大会あり）テニス、ソフトテニス、ソフトボール、ゲートボール、ペタンク、ゴルフ
弓道、剣道、グラウンドゴルフ、ソフトバレーボール（地区大会あり）、太極拳、ボウリング、
ウォークラリー、ダンススポーツ、アーチェリー、還暦軟式野球、ウォーキング、囲碁、将棋
- ・参加資格 原則として県内在住の60歳以上の方（世代間交流イベント等はどなたでも参加できます）
＊種目によって参加資格が異なりますので詳しくは各募集要項等をご参照ください。
- ・参加方法 所定の申し込み用紙（募集要項）による事前のお申し込みが必要です。
各種目の開催会場・日時、申込方法については実行委員会事務局までお問い合わせください。

高齢者の芸術に触れる

2011 福岡県シニア美術展作品募集

シニア美術展では、高齢者の創作による日本画、洋画、彫刻、工芸、書、写真、グラフィックデザインの作品を広く募集します。

応募作品はすべて福岡県立美術館に展示され、その中の入賞作品については、第11回福岡県ねんりんスポーツ・文化祭のメイン会場に展示されます。

なお、本展の審査会は「第25回全国健康福祉祭宮城・仙台大会美術展」の福岡県代表作品（北九州市、福岡市在住者及びグラフィックデザイン部門を除く）の選考会を兼ねるものとしています。

- ・出品者資格：福岡県内に在住する60歳以上の者（昭和27年4月1日以前に生まれた人）
但し、福岡県美術協会会員は除きます。
- ・募集作品：日本画・洋画・彫刻・工芸・書・写真・グラフィックデザイン
- ・出品点数：同一人の出品点数は1部門につき1点とし、2部門を限度とします。
- ・出品料：1点につき1,500円
- ・申込期間：平成23年7月20日（水）～9月20日（火）
- ・申込方法：福岡県立美術館などにある所定の出品申込書で申込みをしてください。
- ・展示会場および展示期間
 - 福岡県立美術館（福岡市中央区天神5丁目2-1）
展示期間
《第1期》10月12日（水）～16日（日）
洋画、彫刻、工芸、グラフィックデザインを展示
《第2期》10月18日（火）～23日（日）
日本画、書、写真を展示
 - イイヅカコスモスコモン（飯塚市飯塚14番6号）
展示期間
平成23年11月19日（土）～20日（日）



ねんりんスポーツ・文化祭に関する問い合わせは、下記実行委員会事務局までお気軽にご連絡ください。お待ちしております。

問い合わせ先 福岡県ねんりんスポーツ・文化祭実行委員会事務局
（福岡県社協 地域福祉部 生きがいづくり課）
TEL 092-584-1401

福岡県ねんりんスポーツ・文化祭

本大会は、高齢者のスポーツ・文化活動を通じた生きがいづくり、健康づくり、仲間づくりを積極的に支援し、はつらつとした高齢社会を築くことを目的に平成13年度から開催しています。

第11回目となる今回は、平成23年11月19日（土）から20日（日）の2日間にわたり、飯塚市のイイヅカコスモスコモンを主会場に筑豊地域で開催いたします。

当日はファッションショー、ふれあい市場、合唱フェスティバル、民謡コンクールなど多彩な文化イベントを開催します。多くの皆様のご来場を心からお待ちしています。

響け!! ねんりんの唄

合唱フェスティバル参加者募集

第11回福岡県ねんりんスポーツ・文化祭では、昨年に引き続き、春日交響楽団の協力を得て、オリジナル合唱団による合唱フェスティバルを行います。

現在、大会実行委員会事務局では、本格的な合唱の素晴らしさを体験してもらい、今後の生きがいづくり、仲間づくりの契機としてもらおうと、合唱フェスティバルの参加者を募集しています。

○参加者募集

県内在住の60歳以上の方（定員100名）

○練習会場

- ・クローバープラザ（春日市）
 - ・イイヅカコスモスコモン（飯塚市）
- ※月2～3回の練習会を行います。



生きがいづくり、仲間づくりの契機として合唱の素晴らしさを体験してみませんか。合唱未経験の方でも大歓迎です。

大好きなおじいちゃん・おばあちゃんを描こう!!

おじいちゃん・おばあちゃんの絵コンクール作品募集

「第11回福岡県ねんりんスポーツ・文化祭」の文化イベントの1つとして開催される「おじいちゃん・おばあちゃんの絵」コンクールは、夏休みの自由課題としている小学校もあり、年々定着しています。

福岡県内の小学生を対象に、祖父母や曾祖父母、あるいは、大好きなお年寄りの元気な姿や、一緒に遊んだ思い出などの作品を募集しています。（過去の出来事や記憶に基づくものでも構いません）

応募方法 各小学校ごとに取りまとめのうえ、応募作品を送付してください。

応募期間 平成23年7月25日（月）

～平成23年9月16日（金） ※消印有効

展示期間 平成23年11月19日（土）～11月20日（日）

※優秀作品のほか、入賞作品を展示します。

展示会場 イイヅカコスモスコモン、イイヅカコミュニティーセンター
（飯塚市飯塚14-66）



昨年の最優秀作品（6年生の部）

赤い羽根バッジデザイン キャッチフレーズ決定

福岡県共同募金会では、福岡県の共同募金運動のシンボルとなる、平成23年度赤い羽根バッジデザイン及びキャッチフレーズの募集を、4月1日から5月16日までの約1か月半行いました。

これは、共同募金運動推進のため、県内の学童・生徒の皆さんを中心に、自分たちが住む地域の福祉財源、災害時のボランティア活動の財源など、幅広く使われる共同募金についての理解・関心を深めていただき、10月1日からの共同募金運動に積極的に参加していただけるよう毎年実施しており、各学校では、福祉教育の一環として取り組んでいただいています。

今年は、71の学校・団体等から3,573点のバッジデザイン、51校から、3,554点のキャッチフレーズ、合計で7,127点の応募をいただきました。

応募作品については、去る6月14日開催の共同募金推進委員会で厳正に審査を行い、入選作を決定しており、10月開催予定の社会福祉大会で入選者を表彰します。

最優秀作については、10月1日か

キャッチフレーズ

「笑顔咲け！」羽根にたくしたこの思い

・・・赤い羽根共同募金

最優秀作

大黒 友佳 さん

苅田町立新津中学校2年

バッジデザイン



最優秀作

篠原 春花 さん

私立真嶺館高等学校3年

ら始まる共同募金運動期間中に、ポスターなどの広報資料、バッジやネクタイピンのデザインとして活用します。

赤い羽根自販機 設置のお願い

秘密① 節電・節約になる自販機！？

赤い羽根自販機の電気代は、季節や設置場所にもよりますが、1ヵ月あたり平均で2,000円～3,000円程度。4～5年前の自販機の3分の1程度の場合もあるので、自販機を入れ替えるだけで、節電・節約につながります。

秘密② 手間なく社会貢献できる自販機！？

赤い羽根自販機の売り上げの一部は、「高齢者の見守り訪問活動」「子育て支援活動」などの地域福祉活動や、「災害時のボランティア活動」に使われる共同募金に寄付されます。

設置に係る経費や、自販機やごみ、お釣りの管理などの面倒な手間はなく、売り上げの13%～20%程度が設置者の収入となる「赤い羽根自販機」は、設置場所を提供するだけで、地域社会や被災地に貢献できる社会貢献活動です。

詳しくは、福岡県共同募金会にお問い合わせください

【問合せ先】
福岡県共同募金会
Tel 092(584)3388

	伊藤園	サッポロ飲料	ハートフル福祉募金	アサヒみどり販 売
設置者の収入	売上の20%	売上の20%程度	売上の13%	売上の20%
募金の方法	売上の5%を業者が募金	設置者、業者が募金(6円/1本)	設置者、業者、購入者が募金	売上の5%を業者が募金
取扱い品	伊藤園	サッポロ飲料	アサヒ飲料、大塚ババレイジ、他	アサヒカルピス、大塚製薬

赤い羽根自販機設置条件

心温まるご寄付をいただきました

(株)ハローデイ様から 寄付金贈呈

福岡県社協は、株式会社ハローデイ（代表取締役社長 加治 敬通様 本社 北九州市小倉南区）から42万円のご寄付をいただきました。

同社では、消費者が各店舗に設置された6種類の寄付先から、希望するものを選んでレシートを投函する消費者参加型の寄付を実施しています。投函されたレシートについているポイントに応じて、同社の利益の一部である1,000万円を分配し6団体に寄付することとなっています。

5月27日に春日市のクローバープラザで贈呈式が行われ、仲村浩一同社営業本部長取締役から目録が贈呈され、本会から感謝状を贈りました。県社協では、この寄付金を高齢者の元気づくりと介護予防の推進を目的としたふれあい・いきいきサロン活動の普及やボランティアの養成などに有効に活用させていただきます。

福岡県婦人保護・救護施設協議会 へ読売新聞西部本社様から寄贈

読売新聞西部本社は、美術・工芸・宗教・芸能・書など各界で活躍中の知名人から作品の寄贈を受け、特別価格で販売（一部入札）し、収益金を福祉活動に役立てるチャリティー事業「名士名流作品展」を開催しています。

第41回目となる展示会が平成22年12月11日・12日に北九州会場、平成23年1月15日・16日に山口会場で開催され、展示会の収益50万円を、福岡県婦人保護・救護施設協議会に対し寄付されました。

6月17日に北九州市の第2優和園で行われた贈呈式では、読売新聞西部本社 山本豊 事業部長から、福岡県婦人保護・救護施設協議会を代表して、和田徳行会長に目録が贈呈されました。

いただいた浄財は、会員施設9施設の生活必需品購入のため有効に活用させていただきます。



読売新聞西部本社 山本豊事業部長（左）、
福岡県婦人保護・救護施設協議会
和田徳行会長（右）

九州納豆組合様から 児童福祉施設に納豆寄贈

7月10日の「納豆の日」にちなみ、県内の児童福祉施設に毎年九州納豆組合から、納豆を寄贈いただいています。19回目となる今年も、春日市のクローバープラザで贈呈式が行われました。

贈呈式では、有限会社吉野商店 池田重利代表取締役から、福岡県内の児童福祉施設を代表して出席した双葉学園の子どもたちに納豆が贈られました。福岡県児童養護施設協議会 西田稔夫会長は、「納豆を毎日

食べているので、施設の子どもたちは、夏バテ知らずで元気に遊んでいます。」とお礼の言葉を述べられました。

この活動は、全国24地域の納豆組合が、納豆の普及と夏の体力回復を目的に行っており、福岡県を担当する有限会社 吉野商店、マルキン食品株式会社、株式会社 丸美屋から寄贈された納豆は、福岡県内82か所の児童福祉施設に送られ、4,570名の児童に提供されました。

青楽園 永原初義 施設長 叙勲受章のお知らせ

元福岡県老人福祉施設協議会副会長である、特別養護老人ホーム青楽園永原初義施設長がこの度の春の叙勲において瑞宝双光章を受章されました。

心よりお祝い申し上げます。

相談あれこれ

このページは、QアンドA形式で、法律に関わる、高齢者の生活問題について取り上げ、それに対する対応策や制度について紹介します。

Q

判断能力の低下で将来の財産管理が不安

一人暮らしをしている77歳になる友人に、最近、物忘れや、判断能力の低下から、将来の財産管理が不安と相談されました。どのような救済方法が考えられますか？

A

弁護士が行う 財産管理等支援について

誰しもある一定の年齢を超えると、徐々に判断能力が低下していきます。ご友人は、ちょうどその入口にさしかかっているようです。

このまま何の備えもせずに判断能力を失うと、ご友人はご自身の財産を適切に管理することができなくなってしまうます。近年、一人暮らしのお年寄りが高額商品を売りつけられたり、必要のない住宅改修工事を迫らたりする例もみられます。

そのようなことにならないように、今のうちに、ご友人には任意後見人制度を利用されるようお勧めします。

任意後見人制度を利用するには

任意後見人制度を利用する際には、まず初めに、将来、財産の管理を委ねるべ

き後見人候補を選んでいただきます。後見人候補者は身の回りの信頼できる方でも結構ですし、弁護士等の専門職でも構いません。

次に、後見人候補者との間で任意後見契約を締結して頂きます。この契約の中で、将来後見人も委ねるべき財産管理の内容を予め設定しておきます。

こうして任意後見契約を結んでおけば、ご友人の判断能力が失われた段階で、予め選んでおいた後見人候補者が正式に就任します。その後、後見人は、契約によって決められたとおりに財産の管理を行うことになるので安心です。

任意後見契約は、公式証書による必要があるなど、注意すべき点もあります。福岡県弁護士会では、任意後見契約について必要な助言を行い、また、後見人候補者の紹介も行っています。一度弁護士会にご相談ください。

法律相談

【問合せ先】 福岡県社協 福祉振興部 相談課

相談日 毎週水曜日

相談時間 13:00～16:00 (予約制)

T E L 092-584-3344

高齢者サークル紹介

静寂に光る一本の矢

弓道・春日市弓友会

今回は、弓道の春日市弓友会の紹介です。「弓道は、年齢・男女を問わず、若者から高齢者まで誰でも楽しむことができるスポーツです。」と話してくれたのは、春日市弓友会会長の蓑田重幸さん（80歳）です。春日市弓友会は現在83名の方が会員となられており、春日市弓道場で、練習に励んでいます。弓道場は、月1回のお休み以外は、毎日午前9時から午後9時半まで開いています。仕事をしている方でも、自分のペースに合わせて練習ができます。

心身の鍛錬

弓道場では、みなさんが「礼射」という練習をされていました。5人一組で、規則的な動作を続け、交互に弓を引くという一連の流れが静かな行われます。5人の呼吸が合わなければなりません。静寂の漂う中、「ピシッピシッ」と弓を引く音だけが弓道場に響き渡ります。心と身体と弓の三つが一体になる瞬間です。冷静な動きの中から、瞬間的に矢を放つという動作は、まるで集中力と瞬発力との戦いのようでした。

定年後の趣味として

田脇喜彦さん（82歳）は、弓道四段です。会社の定年をきつかけに、平成元年から弓道を始めたそうです。今では、健康維持のため週に一度は練習に通われているそうで、思いの試合は、西日本弓道大会で三位になられたことだそうです。最高齢とは、思えないほど爽やかな笑顔の方でした。「弓道は、呼吸に合わせた動作なので、体にもよいのだろ」と話してくれました。



練習風景 緊張感が漂います。



的を目がけて、一点集中です。

諸岡チヨノさん（76歳）が、弓道を習い始めたきっかけは、市政だよりの弓道初心者教室だそうです。定年後の趣味として始めたそうですが、今では五段の腕前です。「日々の稽古や試合を通して、色々な人と出会えることが楽しい。」と話してくれました。笑った時のエクボが素敵な方でした。

春日市弓友会のみなさんは、9月18日の県民大会に向けて練習真っ最中です。



記念写真をパチリッ

高齢者サークルに関する問合せ先

（サークル取材も承ります）

地域福祉部 生きがいづくり課

TEL 092（584）1401

お知らせ 掲示板

* 8月から9月の行事予定について紹介します。

行ってみませんか

第31回ときめきスポーツ大会

目的

知的障害者の体力の維持・増強を図り、障害者の自立と社会参加を促進することを目的とします。(入場無料)

日時

平成23年9月10日(土)

午前10時から午後5時

*雨天決行

会場

久留米総合スポーツセンター

陸上競技場

(陸上競技、

フライングディスク競技)

体育館(卓球競技)

ユースボウル久留米

(ボウリング競技)

問合せ先

福岡県障害者スポーツ協会

TEL 092 (582) 5223

東日本大震災の被災者の皆様へ
福岡県における就職支援のご案内

被災者緊急就職相談窓口

福岡県労働政策課に「被災者緊急就職相談窓口」を新たに設置し、雇用保険制度の紹介、ハローワークへの誘導、年代別就職支援センター、障害者向けの就職支援窓口紹介、緊急雇用創出基金事業の紹介等を行います。

相談窓口

福岡県福祉労働部

労働局労働政策課

福岡市博多区東公園7番7号

県庁2階北棟

TEL 092 (643) 3592

※開設時間…8時30分～17時45分

(土曜日・日曜日・祝日も受け付けます)

熱中症にご注意ください

東日本大震災の影響により、電力の供給力が低下していることから、全国的に節電への取り組みが進められています。家庭や事業所における節電に効果的なのは、冷房の設定温度を28度以上に上げたり、扇風機の利用に切り替えたりすることだと言われています。

しかし、暑い室内で水分を補給せず無理な生活をしていると熱中症にかかる恐れがあります。

特に高齢者の方は、体温の調節機能が十分でないことから、熱中症になりやすいので十分な注意が必要です。

●こんな日は熱中症に注意

・気温が高い ・湿度が高い ・風が弱い ・急に暑くなった

●高齢者の注意点

・のどがかわかなくても水分補給

のどがかわく前に水分補給。特に、スポーツドリンクなどの塩分を含む水分の摂取が効果的。寝る前や入浴前後にも十分な水分補給が必要。

・部屋の温度をこまめに測る

高齢者は温度に対する感覚が弱くなるために、室内でも熱中症になる。室内に温度計を置き、窓を開けるなどの換気を心掛ける。

・入浴はぬるめで短い時間ですませる

体温が下がりにくいと寝付きにくい。

・睡眠をしっかり取る

寝不足や体調不良時は熱中症を起こしやすい。エアコンの設定は27～28度で、扇風機は直接体にあてないようにする。

環境省「熱中症環境保健マニュアル」抜粋

全国170万人加入!!

<http://www.fukushihoken.co.jp>

ボランティア活動保険

日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償

活動場所と自宅
との往復途上の
事故も補償

ボランティア活動
のための
学習会・会議など
での事故も補償

ボランティア自身の
食中毒・熱中症・
特定感染症もOK

天災タイプでは
地震・噴火・津波による
ケガもOK



年間
保険料

Aプラン ...280円

Bプラン ...420円

天災タイプもあります

*各プランの補償金額、補償内容
などの詳細は、専用のパンフレット
をご用意しておりますので、取扱
代理店にお問合せください。

ボランティア行事用保険

地域福祉活動やボランティア活動の一環として行われる各種行事におけるケガや賠償責任を補償!

- 行事参加者 (主催者(個人)を含みます。)全員のケガを補償 (往復途上も含みます。)
- 行事主催者の損害賠償責任も補償

福祉サービス総合補償

ヘルパー・ケアマネジャーなどの活動中のケガや賠償責任を補償!

- 在宅福祉サービス (公的介護保険対象外サービスを含みます。)
- 障害福祉サービス
- 地域福祉サービス
- 児童福祉サービス
- 障害者地域生活支援事業 など



送迎サービス補償

送迎・移送サービス中の自動車事故などによるケガを補償!

- 送迎・移送サービス利用者を特定したプラン
- 送迎・移送サービスのための自動車を特定したプラン

お申込み、お問合せは、あなたの地域の社会福祉協議会へ

団体契約者

社会福祉法人
全国社会福祉協議会

この保険は、全国社会福祉協議会が保険会社と一括して契約を行う団体契約です。

取扱代理店 株式会社 福祉保険サービス

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル 17F
TEL: 03 (3581) 4667 FAX: 03 (3581) 4763

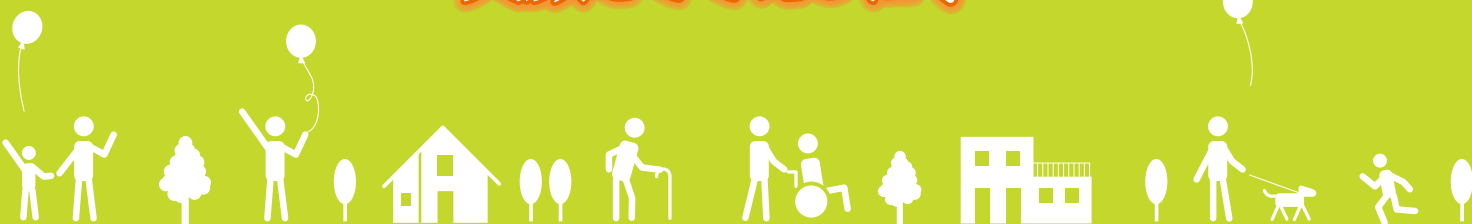
(引受幹事保険会社) 日本興亜損害保険株式会社

福祉の就職総合フェア2011

福祉の職場 合同就職 面談会

参加
求人事業所
約**130**
ブース

笑顔をささえる仕事



日時 平成23年**8月5日(金)** 10:30~16:00 (受付時間10:00~15:00)

会場 クローバープラザ 大ホールほか(福岡県春日市原町3-1-7)

参加対象 福祉の職場に就職希望の方(未経験者可)及び
平成24年3月末に卒業予定の学生(高校生は除く)

内容

- 求人事業所と求職者との就職面談コーナー
- 緊急就職相談窓口
- 各種相談コーナー
 - 福祉の職場何でも相談
 - 福祉関係資格相談
 - 求職相談・求職登録
- 障害者がつくるまごころ製品の展示・販売コーナー

求職者向けセミナー

1回目 11:30~12:05
2回目 13:00~13:35

福祉の仕事内容・職種、面談会で実践できるアピール方法等について学べます。

託児室

お子さんの一時預かりあり(無料)

要予約。生後3か月以上未就学児が対象です。



駐車場は確保できませんので、公共交通機関をご利用ください。
最寄駅 JR春日駅 徒歩1分、西鉄春日原駅 徒歩8分

問合せ先

社会福祉法人福岡県社会福祉協議会 人材・情報課

福岡県春日市原町3-1-7クローバープラザ2階 ☎092-584-3310

(福祉人材センター)

主催 福岡県社会福祉協議会

共催 福岡中央公共職業安定所、久留米市・飯塚市・行橋市・北九州市社会福祉協議会
各福祉人材バンク、全国社会福祉協議会 中央福祉人材センター

後援 福岡県、厚生労働省、福岡労働局、各社会福祉施設種別協議会、
福岡県社会福祉施設経営者協議会、福岡県看護協会、福岡県母子寡婦福祉連合会

